

事業番号	15 09 09	事業改善シート（25年度実施事業分）			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	競技力向上事業費				担当課	部局	教育委員会事務局	
						課・室	スポーツ課	
総合5か年計画	プロジェクト	7-3 生涯を通じた学びと文化・スポーツに親しむ環境づくり ◆スポーツの振興			E-mail	sports-ka@pref.nagano.lg.jp		
	施策の総合的展開				実施期間	S53 ~		

1 事業の概要

目指す姿	県民のスポーツに対する関心とスポーツ活動への参加意欲を高めるため、国際大会や国体等の全国大会での活躍が期待される競技者を育成・強化し、競技力の向上を目指す。					
現状	<p>○競技団体は本事業を活用して継続的な競技力向上に取り組んでおり、その結果、優秀な競技成績を収めている団体も見られるが、安定的な競技力を維持するためにも、各競技の特性に応じた一貫指導体制などの育成システムの確立に向けた支援を続ける必要がある。（一貫指導体制：幼少期から成人期までの発達段階に応じ、計画的・継続的に技術の向上を目指すシステム）</p> <p>○長期的・安定的な競技力の基盤を築くためにも、ジュニア期の人材発掘と競技人口の拡大に向けた取組を進める必要がある。</p>					
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】 社会体育振興事業補助金交付要綱				
	県民との協働による実施：検討中					
事業内容	① 成果目標(H25)					
	<p>○国民体育大会総合成績 平成29年度までに15位以内</p> <p>○国体等におけるジュニア入賞者数 平成29年度までに200人</p> <p>H25は現状より高い成績及び入賞者数を目標</p>					
	② 事業内容 (単位:千円)					
	項目	実施方法	H25事業実績			
			H25 (当初) (決算)			
			H26 (当初)			
	競技力向上事業補助金(国体選手強化)	補助金	各種競技大会で入賞を目指すための活動に対する助成	68,500	68,500	70,050
	北信越国体対策事業補助金	補助金	北信越国体での出場権獲得の可能性の高い競技種目への強化やコンディショニング調整への助成	5,600	5,600	0
	競技力向上事業補助金(馬匹管理補助)	補助金	県有馬の管理に係る経費への助成	1,920	1,920	1,920
	特殊競技用具整備事業補助金	補助金	各種競技用具整備への助成	1,550	1,550	0
オリンピック育成支援事業	補助金	-	0	0	10,190	
次世代トップアスリート育成支援事業	補助金	国際舞台で活躍する次世代のトップアスリートへの助成	5,325	5,325	0	
マルチサポート事業	補助金	ドクター、トレーナー、栄養士等を選手の合宿、国体等に派遣して行うコンディショニング調整への助成	2,066	2,066	2,066	
ジュニア競技力向上事業	負担金	各競技団体への負担金(合宿及び対外試合による強化事業)	16,388	16,388	16,388	
長野県冬季アスリート発掘・育成事業(SWANプロジェクト)	負担金	SWANプロジェクト実行委員会への負担金	4,009	4,009	3,501	
		合計	105,358	105,358	104,115	

事業コスト	区分(単位:千円)	23年度	24年度	25年度	26年度
	前年度繰越				
	当初予算	92,272	104,358	105,358	104,115
	補正予算				
	合計(A)	92,272	104,358	105,358	104,115
	国庫支出金				
	県債				
	その他(繰入金)	3,500	4,000	3,068	1,511
	一般財源	88,772	100,358	102,290	102,604
	決算額(B)	91,488	104,307	105,358	
概算職員数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30	
概算人件費	2,477	2,477	2,477	2,477	
概算事業費(B(A)+C)	93,965	106,784	107,835	106,592	

成果目標の達成状況					
項目	H24末(実績)	H25			H26目標
		目標	成果	達成状況	
国体総合成績	17位	H25は現状より高い成績及び入賞者数を目標	17位	未達成	16位
ジュニア入賞数	174(人・団体)		196(人・団体)	達成	186(人・団体)

目標に対する成果の状況	<p>・66回(山口)67回(岐阜)68回(東京)3大会連続天皇杯17位ではあるが、16位との得点差は、28.5⇒26.0⇒20.75と毎年縮まっている。また、冬季大会については、高い水準(2位)を維持している。</p> <p>・ジュニア全国大会入賞数は、中学生スケート競技・インターハイのスキー競技の活躍により196(人・団体)と目標を大きく上回った。以上により、概ね達成といえる。</p>
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<p><input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施</p> <p>・競技団体は本事業を活用して継続的な競技力向上に取り組んでいる。しかし、安定的な競技力を維持するためにも各競技の特性に応じた一貫指導体制などの育成システムの確立に向けた支援を行う必要がある。</p> <p>・安定的な競技力の基盤を築くためにも、ジュニア期の人材発掘・競技人口の拡大と育成に向けた取り組みに向けた支援をする必要がある。</p> <p>・ジュニア層が希望を持てるよう、国際舞台で活躍する選手を支援し、それに続く選手の育成を目指す。</p>
--------------------	---